



スマホで顧客のタンク残量を  
確認する采女さん

## TOHOピクス(郡山市)

大型の灯油ホームタンクが普及する豪雪地帯と違い、タンクはあっても小型でポリ缶注文も多い南東北の太平洋側では灯油配送が非効率になる。そんな環境の郡山市で、各家庭のタンク残量をリアルタイムに把握できるシステムを導入して効率化を図り始めた燃料販売会社がある。

郡山市内を中心に灯油を届けるTOHOピクス(馬場栄一郎社長)。今冬の灯油需要期に入る前、ゼロスペック(本社・札幌市)のスマートオイルセンサーとGoNOW(配送管理システム)を本格導入した。顧客の8割強のタンクにセンサーを取り付け、スマホなどでタンク残量をリアルタイムに把握できるようにした。

関根淳一燃料設備事業部長は「灯油の需要が今後大幅に増えることはないだろう。ならば配送コストを削減して利益率を改善し、将来も事業を続けられる環境を整えようと考えた」と狙いを説明する。

長年蓄積した勘に頼るスタンプもおり、まだシステム機能の半分も活用できていない現状だが、効果は早くも数字に表れた。寒かった1月、灯油の販売数量は前年比3%伸びたが、ローリーの走行距離は18%削減できた。配送スタッフを1人減らしても回せている。郡山市で普及するホーム

## GoNOW(ゼロスペック) センサーで灯油残量把握 配送効率化し利益率改善

タンクは小型の容量90リットル。しかも同社の顧客はポリ缶との併用やすべてポリ缶の家庭もあり、配達計画は複雑になる。定期配送に回る頻度も週1回から2カ月に1回まで多様になり、加えてスポット注文も入る。

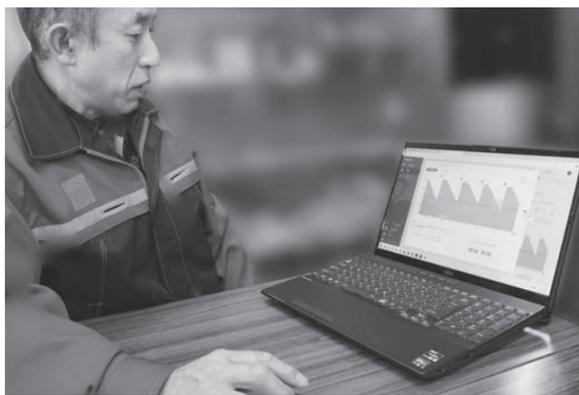
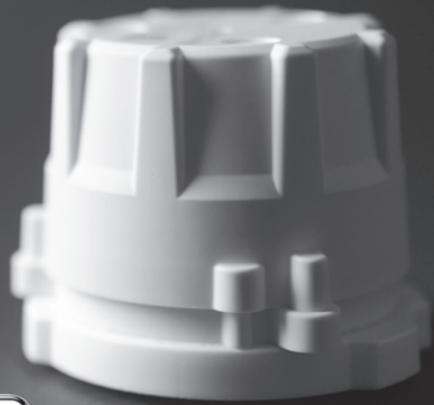
同社配送センターの采女 糾副所長は「配送頻度を減らすには各家庭の使用状況の変化を正確に把握する必要がある」と話す。

計画の作成でもシステムが示す効率的な順路が従来の逆回りになることもあり、「スタッフの熟度が高まればさらに効率化できる余地は大きい」と話す。

# GoNOW

<https://5-now.com/>

全国**41**都道府県  
センサー**7**万台  
**300**社運用



灯油残量が測れる



どこでもネットで確認



灯油が減ったら配送



ぜんせきweb

**【3/27 開催】補助金活用セミナー**  
スマートオイルセンサーによる新たな配送のかたち



【講師】  
ゼロスペック株式会社  
事業本部長  
石塚永稔

新しい灯油配送、  
始めてみませんか？

